



ゼロカーボンシティかごしま推進計画 (概要版) 2022-2031

© Minoru Kuriyama

地球温暖化の現状

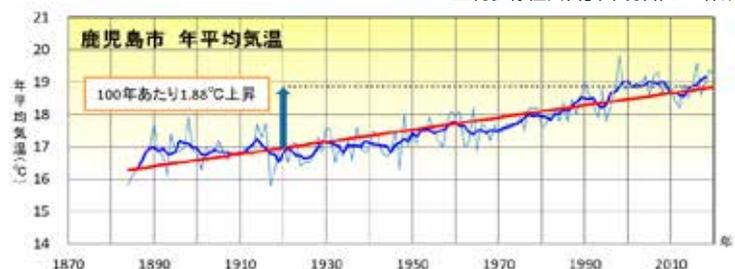
地球温暖化は、人類の生存に関わる重要な環境問題の一つであり、本市の年平均気温は100年あたり1.88℃上昇しています。そして、地球温暖化の対策を行わず、温室効果ガス濃度が最も高くなる場合、鹿児島市域周辺の年平均気温は約3.8℃上昇すると予想されています。

世界では、すでに猛暑や豪雨など地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が増加しており、地球温暖化が進むと、更なる災害の増加や農作物の品質低下など、深刻で広範囲にわたる不可逆的な影響が生じる可能性があります。



地球温暖化の流れ

出典)「令和元年版環境・循環型社会・生物多様性白書」(環境省)より作成



鹿児島市の年平均気温の経年変化

出典)気象庁

ゼロカーボンの実現に向けて

世界共通の長期目標として、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く抑え、1.5℃までに制限する努力を追求することなどを掲げています。

この1.5℃という目標を達成するためには、世界全体の人為的なCO₂排出量を2050(令和32)年前後には実質ゼロ(ゼロカーボン)^{*1}にする必要があるとされています。

こうした状況を踏まえ、本市は、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティかごしま」への挑戦を宣言し、市民や事業者等と一体になって取組を進めています。



計画の目的

一人ひとりが環境に関する意識を高め、市民・事業者・市民活動団体・行政のあらゆる主体が一体となって地球温暖化対策に取り組み、「ゼロカーボンシティかごしま」の実現を図ることを目的として策定するものです。

また、本計画は市域の気候変動影響への適応策を盛り込んだ計画とし、緩和と適応^{*2}の両輪で総合的かつ計画的な地球温暖化対策を進めます。

計画期間

2022(令和4)年度から2031(令和13)年度までの10年間とします。

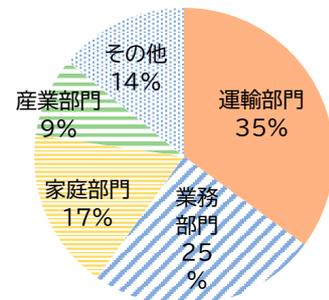
また、2026(令和8)年度に中間見直しを行います。

CO₂排出量の状況と削減目標

●本市のCO₂排出量

2018(平成30)年度のCO₂排出量は3,313千トンです。森林等によるCO₂吸収量は65千トンで、差し引き後のCO₂排出量は3,248千トンです。

CO₂排出量の部門別内訳は、乗り物(運輸部門)が最も多く約35%、会社やお店(業務部門)が約25%、家庭(家庭部門)が約17%、工場(産業部門)が約9%などとなっています。



2018(平成30)年度の部門別CO₂排出量

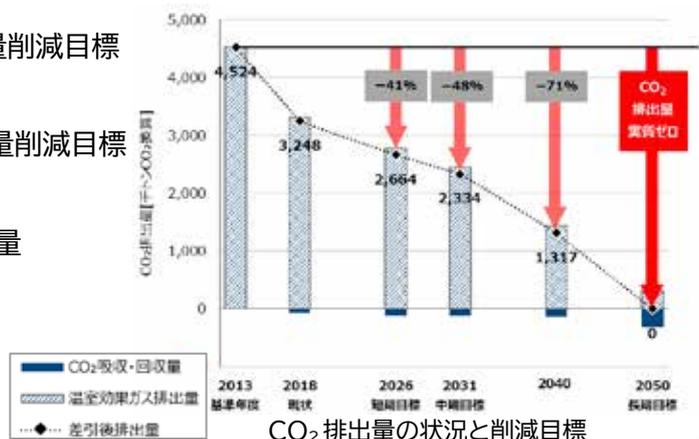
●本市のCO₂排出量の削減目標

短期目標 2026(令和8)年度のCO₂排出量削減目標
2013年度比 **-41%**

中期目標 2031(令和13)年度のCO₂排出量削減目標
2013年度比 **-48%**

長期目標 2050(令和32)年度のCO₂排出量
実質ゼロ(ゼロカーボンシティの実現)

目標達成に向けて、「エネルギー消費量の削減」「電化の促進」「エネルギーの脱炭素化」を中心に必要な対策を講じていきます。



CO₂排出量の状況と削減目標

^{*1} ゼロカーボン:人間の活動から出るCO₂の量と森林などが吸収するCO₂の量が等しくなる状態のことです。

^{*2} 緩和と適応:緩和は温室効果ガスの排出削減と吸収の対策を行うことで、適応は既に起こりつつある気候変動影響への防止・軽減のための備えと、新しい気候条件の利用を行うことです。

(緩和:省エネルギー対策、再生可能エネルギー導入など 適応:熱中症予防、治水対策、農作物の高温障害対策など)

基本方針 1 CO₂ 排出量の削減

市域からの CO₂ 排出量を削減するため、脱炭素型ライフスタイルに向けた省エネルギーを推進します。また、CO₂ 吸収源となる森林等の保全や都市緑化等を推進します。



基本目標

I 省エネルギーの推進

・省エネ行動の定着や省エネ技術の普及を促進します。



II 運輸部門の脱炭素化の推進

・電気自動車等の普及や環境に配慮した交通行動を促進します。



III まちづくりと連携した CO₂ 排出量削減の促進

・コンパクトなまちづくりや都市緑化等を推進します。



IV 森林整備等による CO₂ 吸収源対策の推進

・森林整備や森林保全を推進します。



数値目標(抜粋)

指標	現況値 (2020(令和2)年度)	2026目標値 (2026(令和8)年度)	2031目標値 (2031(令和13)年度)
新車販売台数に占める電気自動車等の割合	31.5%	60%	80%
間伐面積	172ha	850ha/5年	—

基本方針 2 再生可能エネルギーの地産地消の推進

CO₂を排出しないことや災害時のエネルギー確保などの観点から、太陽光などを利用した再生可能エネルギーの地産地消を推進します。



基本目標

I 再生可能エネルギーの導入拡大

・太陽光発電設備の導入やゼロカーボン電力※³への転換等を推進します。



II 再生可能エネルギーの地産地消の仕組みづくり

・環境価値を有するゼロカーボン電力等を市域内で消費する仕組みづくりに取り組みます。



III CO₂を排出しない二次エネルギーへの移行

・電気自動車等や水素エネルギーの普及を促進します。



数値目標(抜粋)

指標	現況値 (2020(令和2)年度)	2026目標値 (2026(令和8)年度)	2031目標値 (2031(令和13)年度)
再生可能エネルギーによる発電量	662,000MWh	752,000MWh	827,000MWh
新築戸建住宅着工件数のうち、太陽光発電設備を設置した割合	36.1%	50%	62%

※3 ゼロカーボン電力:発電時に CO₂ を排出しない、再生可能エネルギー由来の電力のことです。

基本方針 3 資源循環の推進

3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、更なるごみの減量化・資源化に取り組むことにより、資源が循環し、環境負荷がより低減される社会を構築します。また、エネルギー源としての廃棄物の有効利用に取り組みます。

基本目標

I 3Rの推進

- ・飲料カップなどのワンウェイプラスチック※4の排出を抑制します。
- ・海洋プラスチック問題に関する意識啓発を行います。



II エネルギー源としての廃棄物の有効利用

- ・南部清掃工場(バイオガス※5施設・高効率発電施設)の運営を行います。



数値目標

指標	現況値 (2020(令和2)年度)	2026目標値 (2026(令和8)年度)	2031目標値 (2031(令和13)年度)
資源化率	16.4%	21.8%	25.5%
ごみ1トン当たりの発電量	416kWh/t	469kWh/t	492kWh/t

基本方針 4 気候変動適応策の推進

地球温暖化により既に起こりつつある、または将来起こりうる影響に対し、被害を防止・軽減する「適応策」についても対策を進めます。

基本目標

I 自然災害や自然生態系に対する影響への適応

- ・治水対策や土砂災害対策を推進し、自然災害による被害の防止・軽減を図ります。
- ・生物多様性※6のモニタリングや外来種対策を推進し、自然生態系の変化の把握・対応を行います。



II 市民の生活や健康に対する影響への適応

- ・気候変動に適応した農業の推進や漁業生産基盤の整備など、産業分野における影響への適応を推進します。
- ・熱中症対策の普及・啓発や感染症の拡大防止など、健康を守るための適応を推進します。



数値目標

指標	現況値 (2020(令和2)年度)	2026目標値 (2026(令和8)年度)	2031目標値 (2031(令和13)年度)
公共下水道(雨水きよ)の整備率	72.5%	73.3%	73.9%

※4 ワンウェイプラスチック:通常、一度使用した後にその役目を終える、使い捨てプラスチックのことです。

※5 バイオガス:再生可能エネルギーの一つで、生ごみ・紙ごみ等を微生物の働きによって発酵させて発生する可燃性ガスのことです。

※6 生物多様性:生きものの豊かな個性と、それぞれが支えあって生きているつながりのことです。

鹿児島市 環境局 環境部 環境政策課
〒892-8677 鹿児島市山下町11番1号
電話 099-216-1296
発行 2022(令和4)年6月

計画の本編は、
市ホームページに
掲載しています。

🔍 ゼロカーボンシティかごしま推進計画



市ホームページ

